

# 第11回北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会 開催報告

## 1. 日時

2022年12月19日（月）14:00～16:20

## 2. 場所

倶知安町役場2階 会議室



## 3. 報告事項

### (1) 西九州新幹線視察報告… 参考資料

(ドーコン 安齋)

- ・参考資料について説明。

(木村委員長)

- ・視察をされた駅の中で、倶知安駅の参考になるような駅はあったか。

(ドーコン 安齋)

- ・諫早駅が参考になると思われる。参考になる点として、自由通路に面する壁がガラス張りとなっている点、屋上が整備されている点、広い吹抜けが設けられている点などが挙げられる。

(ドーコン 朝倉)

- ・改札を降りると東西自由通路があり、自由通路に面して商業施設と観光案内所があるという構造が、現在検討されている倶知安駅の都市施設と似ている。特に、6ページのように、自由通路に面して、壁がガラス張りの商業施設や観光案内所があるという点は非常に似ている。

(木村委員長)

- ・鉄道・運輸機構より、西九州新幹線の駅舎を作る際に苦労された点、倶知安駅の参考になる点など、ご指摘いただける事項はあるか。

(鉄道・運輸機構 伊藤課長補佐)

- ・私は前任で西九州新幹線の現場を担当しており、武雄温泉駅と嬉野温泉駅の開業に携わった。駅前広場、施設の施工、計画を含めて同時期に行うというところでは、法的な段取りや施工時期の調整など、実問題でも密な調整が必要であり、こちらが苦労した点である。

例えば商業施設が入ると、消防法上の設備が増えるほか、避難通路などの検討が必要になる。我々も協力させて頂きながら、これから進めていかなければならないと思っている。また、諫早駅が似ているというところで、今後旅客の皆様の動線を議論していけたらと思っている。

(木村委員長)

- ・西九州新幹線の駅舎を整備する際、既存の駅で参考にされた駅はあるか。

(鉄道・運輸機構 伊藤課長補佐)

- ・九州新幹線の場合は、北区間と呼ばれる熊本駅から博多駅の区間が開業していた。そのため、基本的にはこちらの駅を参考に、どのような施設が必要なのかを考慮しながら整備している。ただデザインについては全く別であり、自治体の皆様と協議の上、全く新しいものをデザインしている。

(峠ヶ委員)

- ・長崎駅の事例のように、倶知安駅の場合にも、都市施設の開業時期を調整することも検討し得るのだと感じた。

(斎藤委員)

- ・西九州新幹線の施設のうち、特徴があると感じた施設はあるか。

(ドーコン 安齋)

- ・諫早駅の屋上の特徴のある施設だと感じた。撮影している間にも出入りが多く、駅利用者に気軽に利用されているような印象があった。

#### 4. 議事

##### (1) 都市施設に関する論点及び方針… 資料1

(倶知安町 西口主幹)

- ・資料1について説明。

(窪田委員)

- ・前段には「町民からの視点」や「町民の日常利用への配慮」といった記載があるが、方針では地域に関する部分が見えづらい。方針4において、「～持続可能＋地域が元気になるような運営の実現～」のような表現にしてはどうか。具体的には、町民が集まる・利用しやすくなるほか、駅前通りの商店街や旭ヶ丘総合公園との連携など、地域も元気になるという視点を入れ込んでいただければと思った。

(柏谷委員)

- ・方針2の記載「荷物の大きさへの配慮」について、トイレや手荷物預かり機能だけでなく、通路やエレベーター、階段への配慮に関しても、議論で挙げられていたと思う。
- ・「町民からの視点」に含まれると思うが、本委員会以前の議論で、駅には発着点の機能のほか、駅から駅周辺に人が広がっていく、面でお客さんを受ける、という話があった。方針3や4において地域で受けるという視点が無ければ、周辺市町村と話を進める際、ぶれていくのではないかと感じた。方針では「広域的な」や「二次交通」に繋がるのだと思う。抽象的にはなるが、地域でお客さんをおもてなしする、もしくは発着点として駅から人が周

辺に流れていく、といった表現になると思う。

(斎藤委員)

- ・マネジメントしやすいテナントは楽だとは思いますが、やはり個性は欲しいと思っている。地元の店に出店していただくなど、個性的な要素が欲しい。
- ・「これまでの議論」には記載されているが、情報発信に関する記載が方針から抜け落ちている。やはり冬場はスキーをしに来られる方が多いので、スキー場が今どうなっているのか、スキー場に行くためにはどうすれば良いのかといった情報発信が非常に大事になる。方針2に、スキー場などのアクティビティ関係の情報発信を持たせるという記載を入れていただきたい。

(佐藤委員)

- ・「町外・来訪者からの視点」に「倶知安をはじめ広域的なエリア」という言葉があるが、「後志」という形が良いのではないかと思う。2、3日前、DCM 倶知安店内に「北の百貨 しりべしや」という後志の物産を集めた店舗ができた。インバウンドの方々がそこでお土産を買っているという話も聞いている。もう少し、「後志」という言葉を発信したほうが良いのではないかと思う。

(ドーコン 朝倉)

- ・「羊蹄山麓・岩宇を含む後志全域」という言葉にした方が良いということだと思う。

(木村委員長)

- ・倶知安町からは、来年度以降それぞれの市町村に声をかけていくという話があったが、どの範囲の市町村を指すのか。

(倶知安町 西口主幹)

- ・現在ではエリアの確定には至っていない。後志エリアには後志総合振興局があり、新幹線推進室もあるので、この新幹線推進室と連携していく中で、エリアとして活用できるのであれば前向きに検討していければと考えている。

(木村委員長)

- ・「季節感の演出」についてアイデアはあるか。

(柏谷委員)

- ・斎藤委員が挙げられていた情報発信の部分で、「季節感の演出」が関係するのではないかと思う。旅行先では地域性により季節感も異なるため、リゾート地の玄関口という部分にも含まれると思う。

(木村委員長)

- ・冬に来られた方に夏を見てもらうような大型ディスプレイなど、オールシーズンを楽しめる場所であるという視覚的な演出も、季節感の演出に含まれると思う。

(金塚委員)

- ・以前洞爺湖の観光案内所へ行った際、四季を見せる映像が大きなテレビで流れており、とても魅力的であった。冬に訪れても夏に何が楽しめるのかが、映像で見ることでより具体的に伝わる。映像を作成するための素材を集めるということもしておくべきだと思う。
- ・方針2について、倶知安・ニセコに来られる方は長期滞在される方が多いので、それなり

に倶知安町の問題点が分かると思う。アンケートをとることができる機会も含まれると、待ち時間を豊かに過ごせる空間の演出にも繋がる。そのような姿勢を見せることで、進化し続けるまちだと思っていただくことができ、プラスになる。

(ドーコン 朝倉)

- ・「利用者ニーズを汲み上げて反映する仕組みづくり」として、方針4に追加する。住民の意見も、利用者の意見も運営に活かしていくということだと思う。

(木村委員長)

- ・「多用な」という言葉を入れると、外国人も住民も含めることができると思う。

(峠ヶ委員)

- ・方針4の「持続可能な運営」という言葉があるが、駅開業時が完成ではないと思っている。発展可能であるとか、進化し続けるといった、駅が開業した後にも次の世代の方が育っていけるような言葉があれば良い。「持続・発展可能な」という文言が良いかもしれない。

(窪田委員)

- ・夜間の見え方について、建物はガラス張りになると思われるので、冬は照明で印象的な景観を演出することができると思う。照明などでも、季節感の演出に配慮していくと良いと思う。これは方針2の「国際的なリゾート地の玄関口」にも繋がる。

(木村委員長)

- ・駅全体がスクリーンになるようなプロジェクションマッピングも、倶知安駅ならではの演出として面白いと思う。

(佐藤委員)

- ・ガラスに映像を映すような技術もあると聞いている。将来的には色々な演出技法が出てくるのだと思う。
- ・方針2について、この場所を訪れる方たちは、かなり長期間滞在される方も多い。キロロ、ニセコ、ルスツなどのスキーリゾートの位置が分かるジオラマがあれば、楽しみながら時間を潰すことができる。

(柏谷委員)

- ・方針4に入ると思うのだが、寒気や雪があっても安心して過ごせるといった記載があれば良いと思う。

## (2) 都市施設関連… **資料2**

(倶知安町 植田係長)

- ・資料2について説明。

(木村委員長)

- ・飯山駅に携わった者としての意見であるが、もっと吹抜けの空間が少なくても良いと思っていた。というのも、飯山駅のカフェには結構お客さんが入るので、カフェの面積を広げたいという思いがあった。倶知安駅においても冬は多くの方が駅にたむろすると想像される中、どうお金を落として頂くかということを考えると、この空間が勿体ないと思っていた。

- ・吹抜けについて、ご意見をいただきたい。

(窪田委員)

- ・自由通路の天井高は、2階の天井高くらいまでになるのか。
- ・自由通路の天井が高く、その隣に吹抜けのスペースがあるのであれば、自由通路にも光が落ちる可能性があり、自由通路からは横へ抜ける空間ができる。もし自由通路が1階の天井高までしかないのなら、ただの壁になり狭い吹抜けになるのかと思われる。

(ドーコン 朝倉)

- ・シミュレーション上では駅舎の方の天井高の方が高くなる。

(倶知安町 西口主幹)

- ・1階が4m、2階が4mの8mと仮定した場合、2階の天井部分は、新幹線のレールの下が若干食い込んでくるのではないかと想定される。8mが確保できない可能性もある。
- ・また「新幹線駅」の部分は、ほぼ壁となることを予定している。

(木村委員長)

- ・まずは吹抜けの有無について議論することになるが、今回の議論はどのように進めるべきか。

(倶知安町 西口主幹)

- ・吹抜けの有無については中々ピンとこない部分もあると思われる。有無については、特段答えは出さなくても良いと考えている。今後事務局で視覚的に整理し、皆様にお出しできるようにしてから改めて検討していくことができると考えている。
- ・吹抜けの場所についても今描かれている場所が良いのか、前面に配置するべきかなど、検討の余地はある。

(ドーコン 朝倉)

- ・今回、論点及び方針を整理させて頂いたのは、都市施設の細部の検討を行う前に、基本構想として整理することで、次の設計へのやりやすさに繋がると考えたため。皆様で2年間議論したデザインコンセプトがあり、そのデザインコンセプトを反映した方針を設定している。コンセプトを実現するために、吹抜けはあった方が良いのか、階段はどうあるべきかなどがクリアになれば、設計の段階でも案を示していただきやすくなると考えている。

(佐藤委員)

- ・前から気になっていたのだが、階段は閉鎖式なのか。階段から、人がたむろする所へ冷気が上がっていくことになる。
- ・やはり吹抜け部分に階段を配置し、2階は吹き抜け部分の両サイド、飲食機能と一時滞在機能の所を閉鎖するような形が良いのではないと思う。左の物販機能の中にも、飲食機能ができる可能性がある。そうであれば、吹抜けの階段ともう1箇所あれば良いと思う。

(木村委員長)

- ・7ページ右下(七戸十和田駅)のような空間の使い方はしたくないと思っている。後からパーテーションを設置しているが、何も考えずに空間を作った例ではないかと想像される。吹抜けを作るのであれば、そこで何をするのかを検討しておいた方が良い。例えば6ページ右上(諫早駅)ではタペストリーを下げている。5ページ左上(飯山駅)でもタペストリ

一があるが、飯山駅では色々なものを天井から下げることができ、ひな祭りには雛人形が飾られる。やりようによっては季節感を出すことができる天井となっている。ちなみにこの吹抜け空間は、夏は暑く、冬は寒い、長時間じっとしてられないのが現状。5 ページ右下のようにガラス張りになっている出入口も、冬は1~2 箇所しか使わず、その他は締め切り外気が入らないようにしている。ガラス張りでは夏もかなり暑い。このような事も含め、なるべく吹抜け空間が少なければ良いと考えている。ただし上手にこの空間を使うことができるのであれば良い。どのように使うかを考えた上で議論すべきだと思っている。

- ・諫早駅の吹抜け1階部分は、どのように活用されているのか。

(ドーコン 安齋)

- ・1階は交流広場として活用されており、市民の方の作品の展示や、ストリートピアノが設置されている。また6 ページ左下の写真のように団体の集合場所ともなっている。決められた使い方はない状況。

(木村委員長)

- ・七戸十和田駅も飯山駅も同様に、この空間はあまり使わない。頻繁にイベントを開催しディスプレイを変えていくのであれば有効だが、何にも活用されない空間にもなり得る。とりあえず何か置いておくという使い方にはしない空間づくりが必要。

(ドーコン 朝倉)

- ・昨日視察した長野駅では、駅前広場に行く前に都市施設があって、そこに吹抜けがあり、クリスマスツリーが飾られていた。

(木村委員長)

- ・長野駅のように人が佇めるような雰囲気になっていれば良い。
- ・長野駅では暖房は入れられていたのか。

(ドーコン 朝倉)

- ・吹抜けがあるが仕切られており、暖かい空間であった。
- ・長野駅の吹抜けは2階への視認性が良く、倶知安駅に適する事例だと考えている。

(木村委員長)

- ・吹抜けの空間で何をしたいかをイメージしておくことが必要。また、皆が楽しめるような空間づくりをしてほしい。

(斎藤委員)

- ・以前は私も吹抜けはあった方が良く思っていたが、前回の資料を改めて拝見すると、ここでできたスペースに何かを展開していかなければならない。維持はしているものの、何も代わり映えはしないというものでは意味がない。やはりここで何ができるかということ常々考え、変えていく手間が発生することになると思う。それはしっかり取り組まなければならないと思う一方で、この図面を見るとあまり広くない空間なのかという懸念も出ている。とは言いながら、私としては余裕のある空間は必要だと思っている。吹抜けはあった方が良く変わらず思っている。

(柏谷委員)

- ・2階への動線の意識のしやすさや、天井が低いと圧迫感があるため、吹抜けがあった方が良

いと思う反面、自由通路から筒抜けになり寒くなるくらいであれば、階段の部分だけで何かを演出できればとも思う。

- ・諫早駅の吹抜け1階の使い方に関する話があったが、季節感の演出という面では諫早駅の事例（参考資料8ページ）のようにモニターを使って演出していくこともできると思う。

（窪田委員）

- ・吹抜けや階段について、やはり基本スタンスはなるべく一体的な空間にしていくということだと思う。これは2階の空間の分かりやすさや、賑わいを感じるということに繋がる。

（木村委員長）

- ・11ページの事例のように、佇めるような空間にもできなくはないが、倶知安駅の場合階段はそれほど広くないので、スペースを取りすぎてしまう。階段にするのか、もしくは飯山駅のような折り返し式の方法もある。

- ・余談であるが、5ページの左下の写真をご覧いただきたい。床が茶色い部分が都市施設、白い部分がJR東日本の駅舎になる。空間の使い方については両方で協議を行う必要があるという状況だが、倶知安駅においてはそのようなことにはならないので、よろしいかと思う。

- ・3ページ左側、物販機能部分の階段は、どのような階段を想定しているのか。

（ドーコン 朝倉）

- ・2段か3段で、踊り場を付けるイメージの階段になる。

（佐藤委員）

- ・10ページについて、物販機能の部分に階段を作るのであれば②案で、入口に近い方から上がっていく方が分かりやすいと思う。2階の飲食機能が狭くなるのがネックだが、やはり皆が使いやすい階段にするのなら、見やすい所に階段があるべき。

- ・例えば、右側のコインロッカーの部分に階段があるが、2階の一時滞在機能の端に位置することになるため、2階がどういうものなのかがわかりづらい。ということで、吹抜けの一部を階段にしてはどうか。例えば諫早駅の事例（参考資料8ページ）のようなイメージ。階段と吹抜けがある部分は寒くなるかもしれないが、飲食機能と一時滞在機能で階段を分けたほうが良いと考えている。4mの天井高であるので、階段は吹抜けの半分位の大きさに収まると思う。

（ドーコン 朝倉）

- ・現在の吹抜けの位置は、自由通路から2階への視認性を考慮したものとなっている。それを考慮しなければ、佐藤委員の意見のような階段兼吹抜けにもすることができる。

（柏谷委員）

- ・1階待合機能部分のエレベーターの、左に階段を配置するということだと思うが、それでは新幹線駅に入ることができないという議論があったと思う。

（佐藤委員）

- ・赤い矢印のぎりぎりになるが、新幹線駅に入ることができるような配置を想定している。

③案として、そのような絵も描いていただきたい。

（倶知安町 西口主幹）

- ・方向性という中では、階段は情報発信機能と物販機能を妨げるような位置付けではなく、かつ自由通路からの存在意義があり、2階の飲食機能ではあまり階段にスペースを取らず、吹抜けもできればあれば良いと考えていた。

- ・階段の位置は、今後基本計画の中で皆様にお示ししながら検討していくことになる。次年度に向けて意見を出していくことが今回の方向性になる。

(柏谷委員)

- ・物販機能について、最初の頃は情報発信機能の中で物販ができればという話で、そもそも線引きも無かったはずだが、段々ここで物販を行うという話にもなってきている。事業者に伝えるときには上手く伝える必要がある。

(木村委員長)

- ・情報発信機能と物販機能について、西九州新幹線の駅のうち参考となる事例はあるか。

(ドーコン 朝倉)

- ・武雄温泉駅の観光案内所が参考となる。

(倶知安町 西口主幹)

- ・図面が誤解を招いている。以前もそのような指摘をいただいていたが、修正をしていなかった。分ける必要は無く、情報発信機能と物販機能は一つのエリアと考えていただきたい。

(木村委員長)

- ・参考資料 14 ページの武雄温泉駅観光案内所の中に、2階へ上がる階段が設置されているイメージだと思う。ただし倶知安駅の場合は、季節を考慮すると扉が必要になる。

- ・倶知安駅の情報発信機能と武雄温泉駅観光案内所では、広さはどのくらい異なるのか。

(ドーコン 朝倉)

- ・推察するに、武雄温泉駅観光案内所は、倶知安駅の情報発信機能の半分くらいの規模だと思われる。

(倶知安町 西口主幹)

- ・図面に示しているトイレ機能・情報発信機能・物販機能の大きさを倶知安町役場に当てはめた場合、幅はこの会議室の壁から事務室の反対の壁まで、長さは事務室の端から端までになる。

(ドーコン 朝倉)

- ・この図面ではバックヤードを含めた面積となっている。

(木村委員長)

- ・事務所スペースについても考慮する必要がある。

(倶知安町 西口主幹)

- ・現時点ではまっさらな状態であるが、今後はバックヤードを埋め込んでいき、どのくらいの大きさになるのかについて今年度中にシミュレーションする必要があると考えている。

- ・トイレの位置については現在の場所のままとし、中身を埋めていこうと考えている、

(木村委員長)

- ・階段の位置についても、バックヤードのスペースの関係である程度決まってくるかもしれない。文言として、バックヤードを含むということを加えてはどうか。

(ドーコン 朝倉)

- ・バックヤードを含んだ面積であるということを明記したい。

(斎藤委員)

- ・1階の「手荷物一時預かり機能（コインロッカー）」は、どのようなイメージであったか。

(ドーコン 朝倉)

- ・手荷物一時預かり機能は2つある。クロークが情報発信機能にあり、当該箇所はコインロッカーが並んでいるものになる。
- ・7mと記載されているが、図面に描かれている柱（□部分）は使ってはならず、都市施設を支える柱が必要になることもある。よって使うことのできるスペースが狭くなる可能性もある。

(木村委員長)

- ・情報発信機能でクロークを本格的に開設するとなれば、大混雑になるかもしれないと懸念している。

(柏谷委員)

- ・以前、駐輪場に大型ロッカー配置を配置しても良いという議論があったと思う。駐輪場のスペースは使うことができないのか。

(倶知安町 西口主幹)

- ・駐輪場は都市施設の外に配置され、図面右側の北側の階段の方へ整備することを想定している。駐輪場という形で、屋根を整備することも検討している。

(塩川臨時委員)

- ・都市機能についてあまり発言できる立場ではないが、資料1で提示された「これまでの議論」の「④町民の日常利用への配慮」について、駅を利用する人は駅の施設を利用することになるが、ただそれだけではなく、やはり町の人に沢山集まっていただくことが重要だと個人的に思っている。施設を作っていただく際に、この辺りをもう少し考えていただければと思う。

(倶知安町 西口主幹)

- ・いただいた意見を今年度中に整理させていただき、委員へ随時お示ししながら進めていきたい。引き続き情報提供をさせていただくので、よろしくお願ひしたい。

## 5. その他

### (1) 新幹線まちづくり絵・習字コンクールについて

(倶知安町 西村主事)

- ・新幹線まちづくり絵・習字コンクールについて説明。

(金塚委員)

- ・このような取組は凄く良いと思う。実際には、倶知安町以外の方も駅を利用されると思う。今後も町内の小学校だけでなく、後志の小学校でもこういった取組をしていただければと思う。

(倶知安町 西口主幹)

- ・今回はスケジュール的には難しいが、次年度以降、広域的にこのような取組を進めていくことができればと思っている。ご意見を参考にさせていただきたい。

(木村委員長)

- ・今年度最後の委員会であるので、委員の皆様から一言ずついただきたい。

(窪田委員)

- ・私は途中の回からの参加であるが、地域の方が熱心に議論されており感銘を受けた。これからもこの委員会が続くということで、今後ともどうぞよろしくお願ひしたい。

(斎藤委員)

- ・私は(一社)ニセコひらふエリアマネジメント所属であり、地域住民の目線というより、どちらかというと観光事業者の目線で、偏った意見ばかり挙げていたような気がする。皆様の意見を伺いながら「なるほど」と思うことも多く、非常に勉強になった。本委員会の意見を踏まえ、良い駅になればと思う。

(佐藤委員)

- ・私は倶知安町町内会連合会の推薦で委員となっているが、建築会社に務めていることもあり、具体的なことを言い過ぎたとも感じている。駅開業まで生きていられるかもわからないが、息子や孫に多大な借金を残さないようにしなくてはならないと思っている。地域のためになるような建物になればと色々意見を申し上げたが、結構良い具合に進んでいると感じている。私は町民に情報発信をしており、もしこれからもこのような機会があれば、もっと皆さんに情報を伝えていきたい。

(金塚委員)

- ・私は人生の半分を倶知安町で過ごしている。実際に学生時代を倶知安町で過ごして、例えば「高校生のたまり場が欲しい」と思うこともあった。このような意見はこれからも伝えていきたい。私は地域の方のハンドメイド作品の委託販売をしている。技を持っている方が作品を見せられる場所があれば、倶知安町の発展にもなる。倶知安町というよりも、後志、全員でこの駅を作っていくということを、うまく伝えられるように今後も頑張りたい。

(峠ヶ委員)

- ・私はデザインや建築、観光の専門ではないので、この2年間色々な方の意見を聞き、とても勉強になった。駅は完成して終わりではなく、これからもずっと続くものだと思っている。これから利用される方が、楽しんで利用したり、そこで何か生まれたり、面白いことができるような、持続可能で、かつ発展や進化ができるような場所を皆で考えていきたい。

(柏谷委員)

- ・私は本委員会に至るまでの委員会やワークショップに関わり、途中から委員として正式に加えていただいた。本委員会ではこれまでの議論の内容を少しでも出すことができたとも思っているが、加えて、大分好き勝手言わせていただいた。言いつばなしにならないよう、自分でも取り組むべきことがあると思うので、開業までまだまだ頑張っていきたい。

(塩川臨時委員)

- ・活発な意見が出ており、皆様のまちづくりに対する熱い思いが伝わってきた。我々は駅を作る側であるが、皆様の意見を聞きながら、駅が開業したときに「良い駅ができた」と言

われるような駅を作っていきたい。

(木村委員長)

- 駅舎デザインコンセプト検討委員会を含めると、3年議論してきたことになる。年を重ねるごとに、皆様が自分事のように考えていただいていることを実感している。この思いのボルテージを上げていくことが本委員会の使命でもあり、また情報をいかに町民に伝えていただけるかということも大事。この機運が一番盛り上がった状態での開業が理想的。どのようになるのだろう、と始まった委員会だが、自ら伝えた思いが形になっていることを皆様も実感していると思う。是非これを多くの人に広めていただきたいと思っている。
- 本日は本田副委員長、吉田委員、宮武委員が欠席であるが、このお三方にも色々のご尽力いただいた。特に本田副委員長には地域との調整役という役割も果たしていただき、色々な議論が上手く進むよう、表でも裏でも支えていただいた。吉田委員についても観光協会という非常に大事な立場でご発言をいただいた。宮武委員については駅前商店街において機運を醸成する活動に取り組んでいただいている。これをきっかけに、新幹線の輪が広がっていくことを願っている。
- 本委員会は来年度以降も続くということで、また皆様の知恵を拝借して、良い駅へと向かっていきたい。オブザーバーの皆様にも毎回参加していただいたこと、感謝申し上げたい。来年度以降もご指導をいただきながら、駅完成へと向かっていきたい。ありがとうございました。

以上